

ふ く い

校 訓

真実(まこと)をもとめ 身をきたえ ともにつとむる福井校
 かしこく やさしく たくましく
 ふるさと大好き福井っ子

体験が人を育てる

例年になく早い開花を迎えた桜でしたが、すっかり花を落とし、新緑の色が増す季節となりました。室内、室外を問わず、学習・生活に心地よい日々が続きます。

入学式・始業式からあっという間に約1ヶ月が過ぎました。108名の福井っ子は、新しい学年にすっかり慣れ、担任とともに元気に学習したり生活したりしています。1年生15名も、保護者・地域の皆さん、上級生のお兄さん、お姉さんに見守られながら元気に登校しています。また、朝マラソンでは、お兄さんやお姉さんの励ましを受けて一生懸命走ったり、休み時間には体育館やグラウンドで友達と仲良く遊んだりしています。



4月22日(日)は、今年度初めての授業参観でした。新しい学年で気分一新、張り切って勉強しているところを見ていただきました。また、授業参観に引き続きPTA予算総会、学級懇談会、6年生につきましては子どもたちがとても楽しみにしている修学旅行の説明もさせていただきました。本部、学級委員、地域委員等、PTA役員の皆さんには今年1年大変お世話になります。学校と家庭が手を携え、地域の皆さんの力をお借りして「かしこく やさしく たくましく ふるさと大好き福井っ子」をともに育てていきたいと思えます。どうかよろしくお願ひします。

新年度が始まったのも束の間、ゴールデンウィークに入ります。連休中の過ごし方については、学校でも指導し、またおたよりを通して保護者の皆さんにお願いをしますが、規則正しい生活、安全についての配慮とともに、豊かな体験活動ができるゴールデンウィークになればと思います。

国立青少年教育振興機構が全国規模の調査を行った平成26年度「青少年の体験活動等の実態調査」の結果から、以下のようなポイントが示されています(抜粋)。

- 【 ① 自然体験や生活体験、お手伝いといった体験が豊富な子どもや、生活習慣が身につけている子どもほど、自己肯定感や道徳観・正義感が強くなる傾向がある。
- ② 保護者がしつけに力を入れている家庭ほど、子どもの自己肯定感や道徳観・正義感が強くなる傾向にある。
- ③ 生活体験やお手伝いと教育費にはほとんど関係が見られない。

これらのことから、子どもの自己肯定感や道徳心など豊かな心を育むためには、子どもへの関わりやしつけを通して、生活体験やお手伝いといった日々の体験を充実させたり、規則正しい生活習慣を身に付けさせたりすることが大切だと考えられます。】

この調査を受け、教育社会学者 舞田敏彦氏は、「体験が人を育てる。昔から言われている格言だが、これは理屈抜きに正しい。」と述べています。

交通安全や不審者、危ない遊びに気を付けていただき、子どもたちが家族・地域の皆さんとの絆を深め、豊かな体験ができることを願っています。

校長 中西 一就
 教職員 一同